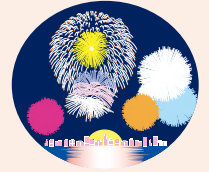


会報 93号

発行 日本介護福祉士会静岡県支部
一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)

令和3年度 第13回 静岡県介護福祉士会定時総会記念講演

「その人らしい最期に寄り添う」

講師：内藤いづみ氏(在宅ホスピス医)

新緑の山々を眺めながら中部横断道で山梨へ。2年越しの総会記念講演の収録に行ってきました。甲府駅前には蔵が立ち並び、素敵な風景。名産のアツアツのほうとうを食べていざ！講演会場は杉山理事が施設長を務める“万寿の杜”、地域にとけ込むシックな外観で、館内入ってすぐの程よいスペースの地域交流室で、収録は行われました。在宅医の内藤いづみ先生、偶然施設のすぐ近くにお住まいで、自転車でお越し頂きました。90分の講演は、時にユーモアを交えられ、先生の人柄を感じる講演となりました。今を生きる思いを書き留める‘いい塩梅ノート’はお勧めです！講演の様子は会員限定、YouTube で期間限定配信させて頂きました。

介護老人福祉施設サテライト
万寿の杜ベランダから見る
「万寿森古墳」

研修風景



内藤先生



内藤いづみ氏 著書他

「その人らしい最期に寄り添う」 講演を視聴して

私が勤務している施設がある藤枝市では行政と医療、介護の専門職の代表が集まり定期的に「医療・介護連携推進会議」を開催しています。そこでは「住み慣れた地域で最期まで」と看取りについて医療と介護の立場から意見交換を行っています。その会議に参加するようになってしばらくしてから内藤先生の情熱大陸を観て、番組が終了する頃にはAmazonで先生の本を購入しているほど先生の患者様と向き合う姿に感動をしました。

購入した「その人らしい最期に寄り添う」を読み終わった時にはもっと先生の話を知りたいと思い、介護福祉士会総会の講演内容を決める時に是非お願いしたいと伝えました。コロナの関係で延期されて、さらに収録に代わってしまい、すごく残念に思っていました。今回YouTubeではありますが先生の話を見ることができて本当にうれしかったです。

私は特養の介護職をしています。自施設はショートステイも併設しているので数年前まではショートステイで相談員も兼務していました。その経験の中でショートステイの在宅サービスと特養に入所される施設サービスにおける看取りについて温度差を感じていました。主治医や家族とのつながりが在宅では強く、施設では弱く、入所されている方の暮らしに疑問を感じています。特に看取りに関しては、加算ばかりが先行して、本来の看取りケアが見えなくなっている現状がありました。その課題に気づき、施設では看取りに関する検討会を毎月行っています。その中で挙げた課題に、「絆を切らさない」という、本人と家族だけでなく、私たち職員と家族も常に情報共有が出来る関係作りの必要性に気づきました。家族とそのつながりがないと終末期の受け入れ(心の準備)が整わず、

本人が望まない状況になる事もあります。家族から介護を委ねられ利用者様に一番近い存在の介護職員がご本人の思いに寄り添えないことの悲しさを何度か経験しました。また、利用者様だけでなく家族にも寄り添い、支える事が私たちには求められていると思います。

私たち施設職員もチームでそれぞれの役目を果たしていく事が「その人らしく…」につながっていくと考えています。先生がおっしゃった「私たちなりの道を作ってしまう」を今、変えようと努力している最中です。利用者様との対話を大切にする職員は、観察力やアセスメント力が高くサインに気づきますが、それが出来る職員は数名しかいません。現場の課題はたくさんあり、時間がかかるかもしれませんが、「その人らしく命を生きる」支援が出来る介護職を育てていきたいと思っています。

最期をどこで(場所)迎えるかと同様に「誰と」ということも大切に施設での看取り介護を形にして、介護職という立場ではありますが、先生のように終末期に利用者様、家族に寄り添える施設になれるよう努力していきます。

志太・榛原ブロック 理事 増田 知佐子



▶▶▶ 研修報告 認知症介護基礎研修 ◀◀◀

昨年からオンライン研修で開催、不安定な通信環境での苦い経験から今年は準備を整え、スムーズな研修運営ができています。本研修は県の委託事業で受講定員210名でしたが、4月からの介護の報酬改定により、無資格者の受講が必須(3年間の優遇措置となっています)となり、受講希望者が1000名を越えました。選考に苦慮しましたが、介護経験1年未満の方も多く、「入職3ヶ月で受講、知らないことばかりで、明日から現場で活かして頑張ろうと思った」「認知症の詳しい症状がわかり易く、自身の今までの行動を反省し、利用者に良い対応をしたい」と前向きな意見を多く頂きました。



知ってるようで
知らない

介護
サービス

『ケアマネジャーが期待する(求める) サービス事業所ってどんな事業所?』



介護保険は自立支援型の社会保障サービスですからご本人の自立度やご家族の介護力に合わせた自立支援の取り組みを行っている事業所=ケアマネから選ばれやすい事業所ではないかと考えます。

1. 日常生活動作の“実用性”や“根拠”をもってケアしている(エビデンス)
2. ご家族やケアマネの問い合わせに“対応が早い”(スピード)
3. ご利用者やご家族の“納得感”が得られるケアやサービス、説明を行っている(プレゼン能力)
4. ケアマネに対し、ケアの“提案や助言”ができる(専門性)
5. 家族に対し“介護指導”が適切にできる(スキル)

1~5を実践している事業所は利用者のアセスメントは当然ですが、それに加え家族のアセスメントもできている印象があります。日々のケアの中でアセスメント能力を高めることは介護の専門職にとって重要な事です。そして何より、ご利用者のことでケアマネと喜び合え、共に考え合えることができる担当者さんがいる事業所に期待を寄せています。そういった介護福祉士の方が活躍されることを応援しています。

静岡市介護福祉士会 山道 昇三

委員会紹介

各委員会の目的に基づき委員会活動が始動しています！



組織強化委員

コロナ禍により、ブロック活動も停滞気味です。新規入会者のモチベーションも下がらないようフォローも必要。オンラインの良さを活かしながら月1回、交流会を開催します！誰でもどこからでも参加できます。初回は9月19日(金)19時～多くの参加、心よりお待ちしております!! (詳細はHPに掲載)

災害支援委員

「災害ボランティア・コーディネーターの育成」

今年度から委員会の名称が「対策」から「支援」に変更になりました。今までと同様、被災時の支援に対しての活動に加え、どう考え行動していくかを学びながら“ボランティア力”を育てていきたいと思ひます。今年度は、BCP策定、模擬災害対応、避難所運営などの訓練研修や災害グッズの研修などを企画し、発災時行えるよう、平常時出来ることを考えていきたいです。また、現在被災されている熱海市災害支援についても、関係機関と連携を取り、介護福祉士会としてその専門性が少しでも活かせる支援を調整していきたいと思ひます。



障がい福祉委員

今年度初めて、県の合理的配慮理解促進事業として実施する研修もあります。コロナ禍でオンライン研修が主流になりつつありますが…だからこそ対面研修の良さもわかってきました。障がい者施設に関わる会員の皆さん！ステップアップのために必要な事業の企画運営に参加しませんか。

広報委員会

広報誌やホームページを活用し、介護福祉士会の活動を、まずは会員の皆さんに発信！介護福祉士会の活動を知っていただき、仲間づくりや情報の交換ができるコミュニティが増えてくれることを願っています。今後は、広く一般の方にも福祉について発信していければと考えています。

地域密着型サービス外部評価委員会

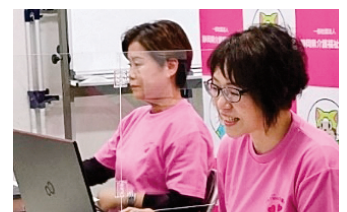
コロナ禍で大変な中、各調査員は様々な工夫をしながら事業所の外部評価に取り組み、令和2年度は118件の実績をあげることができました。事業所は介護保険改定により、令和3年度から運営推進会議と外部評価受審の選択制になりますが、介護福祉士会だからこそできる外部評価を目指して今年度も頑張ります。

福祉4団体合同研修委員会

「社会福祉士会」「県地域包括・在宅介護支援センター」「ケアマネ協会」「介護福祉士会」4団体の構成員の資質の向上を図る為、合同で研修を開催しています。今年度は当会が実行委員となり、中京大学法科大学院教授の稲葉一人先生を講師に迎え、研修を開催します。多くの方のご参加お待ちしております！

ケアコンテスト委員会

今年、第10回ケアコンテストを迎えるにあたり10年続けることが出来たのは皆様のご協力のおかげと感謝しております。昨年度は感染症により新しい生活様式に合わせオンラインという形に変えて実施しましたが、今年は本来のコンテスト様式に戻した開催となります。しかし、感染症予防から会場内は競技者と関係者のみで収録を行い、コンテスト模様をYouTubeで配信する予定です。また、競技の様子だけでなく第10回大会にふさわしい内容を盛り込み、多くの方に視聴して頂けるよう委員が総力をあげて計画をしています。記念すべき第10回大会にあなたもエントリーしてみませんか。



出前講座委員会

昨年度からオンライン研修とDVD視聴の2本立てで小規模事業所へ対応しています。今年度は、「食事の介助」「排泄ケア」「入浴・清拭の介助」「口腔ケア」「ターミナルケアの理解」の5テーマを新たにDVD作成して、さらに充実させていきます。オンライン研修も主流になり、講師登録されている会員の皆さま、家に居ながら講師にチャレンジ！お願いします！



介護の学舎委員会

毎年恒例になりました！が、昨年からはオンラインで実施。今年もオンラインにより12月に実施予定。テーマは未定ですので本誌面を借りてご意見を伺います！

養成校と共催ですので、共に学びあえるテーマをお知らせくださ〜い。

認定介護福祉士養成研修委員会

現在、第1期生はコロナ禍という困難な中、受講生仲間と支え合いながら、モチベーションを維持し、多くの知識・技術を学んでいます。そして、これからの2期生以降への学びのバトンをつなげられるようにという思いもあります。認定介護福祉士養成研修委員会では、2期目の養成研修の準備にも取りかかります。多くの介護福祉士が、この「認定介護福祉士養成研修」で学んでいただき、その学びを介護現場に還元(学びのお裾分け)していただけたらと思うばかりです。

研修委員会

コロナ感染予防の為、今年度はリモート研修を中心に、対面については参加人数を少なくして実施していく予定です。基本研修、ファーストステップ研修、認定介護福祉士養成研修など生涯研修はもちろんのこと、現場のニーズに沿った様々な研修を企画していきますので、是步ご受講ください！

高齢者権利擁護等推進事業委員会

コロナ禍により昨年度は身体拘束廃止フォーラムのみYouTube配信したところ県内多くの関係者に視聴して頂きました。今年度は身体拘束廃止推進員養成研修を30名の定員で実施、フォーラムは昨年同様YouTube配信予定です。

利用者さんの尊厳を第一にケアに努められるよう意識改革していきましょう！



ワンポイント介護

— 介護の原則 —

1. 対象者・介護者共に安全であること
2. 対象者の同意が得られ、対象者にとって安楽であること
3. 対象者にとって不要な負担にならないように効率的であること
4. 対象者の「生活機能」を引き出し十分に活用する。

この4つの原則を理解しましょう。介護者の手は「支える手」です。「上からつかむ」のではなく「下から支える」対象者は「物」ではなく「人」です。高齢者である為、皮膚が弱く傷つきやすい、血管が細く内出血を起こしやすいです。体を傷つけることと同じように、相手の気持ちを傷つけてしまう場合もあります。介護の専門職として「つかむ」ではなく「支える」介護をしていきましょう。

*対象者の体を「支える場所」、介護者の「手を入れる場所」を確認し、対象者の方に負担や不快にならないようにしましょう。



福祉レクリエーション

ニュースポーツ「ラダーゲッター」

ニュースポーツとは、20世紀後半以降に新しく考案されたスポーツ群をいいます。その数は数十種類におよび技術やルールが比較的簡単で、誰でも、どこでも、いつでも容易に楽しめることを目的に新しく考案されました。「ラダーゲッター」は子どもから高齢者まで、また、障がいの有無にかかわらず、みんなで一緒に楽しむことができるニュースポーツでレクリエーションゲームとして開発されました。

ロープでつながれた2本のゴム鞠(まり)をラダー(はしご)に向かって引っ掛けるというゲームで、投てきをする選手は鞠(まり)の片方を持ち、もう一方の垂れ(たれ)下がった鞠(まり)を前後に揺らして飛ばすようにしてアンダーハンドで、はしごに向けて投げるといったものです。

身近にあるハンガー掛けを利用し、手作りで簡単に作ることができ、デイサービス等の施設でも気軽に活用できるレクリエーションスポーツです。



駿東・田方ブロック CSすんとう・レクリエーション 倉島 修

熱海土砂災害の現場から 専門職としての視点でできること <災害支援委員>

近年、梅雨も終盤を迎える頃、大きな災害がもたらされています。今回の熱海市伊豆山の大規模土石流をはじめ、県東部の大雨は想像を絶する程大きな傷跡を残しました。

7月3日お昼前に衝撃的な映像が目に入り、何度も繰り返し放映されました。その後週明けの5日夜、会として、どういった支援ができるのか、急遽災害対策委員会が開かれました。様々な話し合いの中で第一は先導隊を送り、現地の状況把握をすることになり、10日に5名が熱海市に入りました。街のあちこちで報道ヘリや緊急車両を見かけ、災害の凄さを表しているようでした。避難先の1つである、ニューフジヤホテルで、ちょうど【保健・医療・福祉合同調整本部会議】が開催されていたため、参加させて頂きました。DWATをはじめDMATやDPAT等、様々な専門職チームが感染症対策をしながら、避難されてきた方々の支援をされていました。16日からはホテルの避難所が終了となることから、面での支援から点での支援となることで、これからの課題が見えてくると感じました。被災者の日常が戻るのも長期となるため、ボランティアとして“できることを”みんなで考え、行動してみませんか！

浜松ブロック 災害支援委員 鈴木 健太

※DWAT(災害派遣福祉チーム)・DMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)



心あたたまるワンシーン —こんな時だからこそ何気ない日常が大事—



◀手作りらっきょう大好き！
畑で栽培し酢漬けにもチャレンジ！
夏バテ対策はこれが効く～！

行ける時に行く！西伊豆町▶
宇久須の景勝地「黄金崎」に
外出！（みんなの家）



◀「ちょっとした関わりが当たり前の
日常を作る」
一緒に草取りするひとコマが利用者、
職員のプチ幸せ。
(特養・第2開寿園)



◀「お風呂、本当に気持ち
よかったわー！」
利用者さんの何気ない
一言と笑顔がとても
嬉しく感じる瞬間で
す。(特養・白扇閣)

※研修・講習会情報はホームページ (<http://shizukai.jp>) でも案内しています。



お知らせ

組織強化委員事業 オンライン交流会
開催日時 第1回 9月17日(金)19:00~20:00
第2回 10月15日(金) ”

職場での悩みや、日々の想いを発散したり、会について知りたいこと、ご自身のキャリアアップの話など、オンライン交流会を通して情報共有しませんか。現場で役立つミニミニ講座を実施予定。是非ご参加ください！

編集後記

今年度初めて広報委員を担当する事になり、このBonくら〜じゅを使って、どうしたら皆が知りたい事を提供できるのか、また介護福祉士会及び介護福祉士の啓発活動の一環になるのか。委員みんなで悩んで出来たものが、今回の中身である。まだまだ発展する事が出来る広報誌。今後も楽しみにして頂けたら幸いです。

(浜松ブロック 鈴木 健太)